

れ だ ん や ま も の が た り
レダンの山の物語



か ひと しっぴつしゃ ひ やまじゅん こ
書いた人／執筆者：檜山純子

ひと しっぴつきょうりよくしゃ なかごしな み
てつだってくれた人／執筆協力者：中越尚美

いらすと あい な ひ やま ざ ずり
イラスト：アイナ・ヒヤマ・ザズリ

れ だ ん さ ん ま れ し あ
レダン山はマレーシアの
じ ょ ほ る し ゅ う た か
ジョホール州にあります。高さは
1276 め と る
メートルです。めずらしい
き は な お お た き
木や花が多く、きれいな滝もあり
ます。



むかしむかし れ だ ん さ ん ひめさま ま ほうつか
昔々、レダン山にとってもきれいなお姫様が、魔法使い
のおばあさんといっしょに住んでいました。

くに ま ら っ か ま ふ む ど おうさま
となりの国マラッカにマフムドという王様がいました。こ
ま ふ む ど おう や ま ひめさま けっこん おも
のマフムド王は、レダンの山のお姫様と結婚したいと思
いました。ま ら っ か おうさま はたら け ら い
マラッカには王様のために働く家来たちがたくさ
んいました。おうさま け ら い い
王様は家来に言いました。



「^{れ だ ん}レダンの^{や ま}山のお^{ひ め さ ま}姫様に^あ会いに^い行くのだ!そして、『^{おう さ ま}王様
と^{け っ こ ん}結婚してください』と^い言うのだ!」

^{おう さ ま}王様にはもう ^{ば ん め}1番目の奥さんと^こ子どもがいました。でも、
^{い す ら む き ょ う}イスラム教では ^{に ん}4人まで^{お く}奥さんを^いもらうことができます。

^{れ だ ん}レダンの^{や ま}山のお^{ひ め さ ま}姫様に^{ば ん め}2番目の奥さんにな^{お く}ってもらうのは
^{む ず か}難しい^{し ご と}仕事ですから、^{だ れ}誰も^{れ だ ん さ ん}レダン山まで^い行きたがりませ
んでした。

^{おう さ ま}王様は、^{ま ら っ か}マラッカで^{い ち ば ん え ら}一番偉い家^{け ら い}来の^{は ん と あ}ハントアに^い言いまし
た。

「^{れ だ ん さ ん}レダン山に^い行って、お^{ひ め さ ま}姫様に^あ会^いうのだ!」

^{は ん と あ}ハントアは、^{げ ん き}あまり元気で^いはありませんでしたが、「はい、
^{おう さ ま}かしこまりました、^い王様!」と^い言いました。



はんとあほかけらいれだんさんいやま
ハントアと他の家来たちはレダン山へ行きました。山に
くさきかわおおいしどう
は草や木がたくさんあり、川や、大きな石もありました。動
ぶつ
物もたくさんいましたから大変でしたが、村に着きました。

れだんさんひめさまむらびと
「レダン山のお姫様はどこですか。」と村人にききました
むらびと
が、村人たちは

わわたしひめさまうちし
「分かりません。私たちはお姫様の家を知りません。お
ひめさまふしぎひと
姫様は不思議な人です。」と言いました。

はんとあつかけらいひとりままと
ハントアはとても疲れましたから、家来の一人、ママトに
わたしむらやすれだんやまひめさまあき
「私は村で休みます。レダンの山のお姫様に会って来てく
ださい。」と言いました。

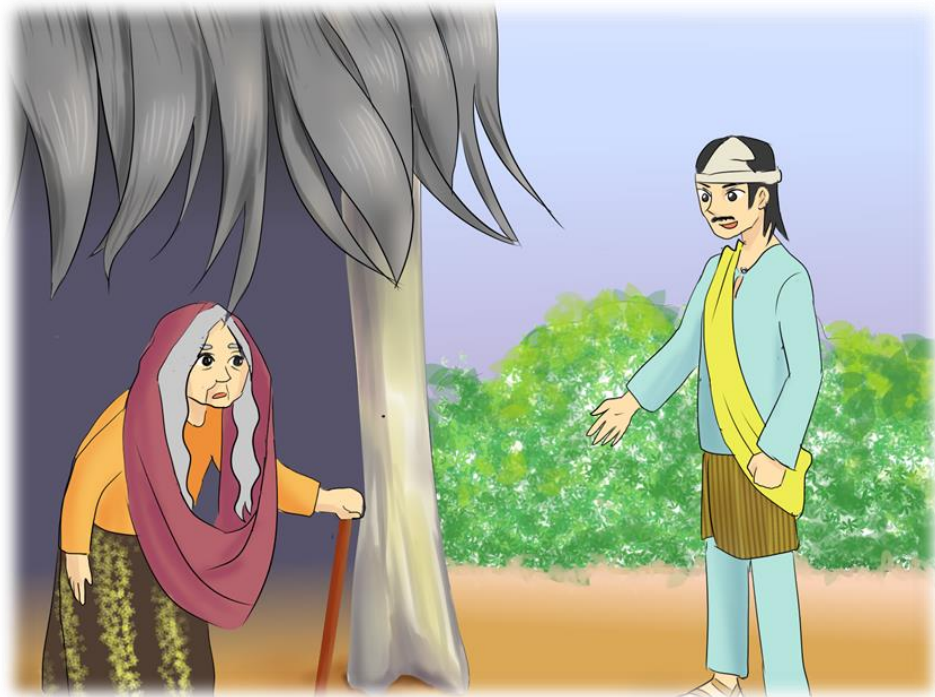


ままとほかけらいれだんさん のぼやまのぼ
ママトと他の家来たちはレダン山に登りました。山登り
たいへん ひめさま うち つ ひめさま うち
は大変でしたが、お姫様の家に着きました。お姫様の家
は、とても不思議でした。はしら おお ほね
柱は大きな骨でできていました。
そして、やね なが かみ
屋根はとても長い髪でできていました。

うち なか ま ほうつか で
家の中から魔法使いのおばあさんが出てきました。「ど
なたですか。」

わたし まらっか ま ふ ぶ ど おう けらい おうさま れだん
「私はマラッカのマフムド王の家来です。王様は『レダン
やま ひめさま けっこん い ままと
の山のお姫様と結婚したい』と言っています。」とママトは
い
言いました。おばあさんは、

わ ひめさま い うち はい
「分かりました。お姫様にききます。」と言って、家へ入り
ました。しばらくして、おばあさんはいえ なか で
い
言いました。



^{ひめさま} ^{なな} ^{もの} ^ほ ^い ^{なな}
 「お姫様は七つの物が欲しいと言っています。七つの

^{もの} ^{ひめさま} ^{おうさま} ^{けっこん} ^{ひと}
 物をください。そうすれば、お姫様は王様と結婚します。」

^め ^か ^{しんぞう} ^{おおざらななさら} ^{ふた} ^め ^{のみ} ^{しんぞう}
 つ目は蚊の心臓を大皿七皿です。2つ目は蚕の心臓を

^{おおざらななさら} ^{みつ} ^め ^み ^{みどりいろ} ^{かた} ^{びんろう}
 大皿七皿です。3つ目はまだ実が緑色で固いビンロウの

^{じゅす} ^す ^{ななはい} ^{よつ} ^め ^{おんな} ^こ ^{なみだ}
 ジュースをかめ七杯です。4つ目は女の子の涙をかめ

^{ななはい} ^{いつ} ^め ^{まらっか} ^{れだんさん} ^{きん} ^{はし}
 七杯です。5つ目はマラッカからレダン山までの金の橋

^{です} ^{むつ} ^め ^{れだんさん} ^{まらっか} ^{ぎん} ^{はし}
 です。そして、6つ目はレダン山からマラッカまでの銀の橋

^{なな} ^め ^{あと} ^{おし}
 です。7つ目は後で教えます。」

^{ままと} ^{やま} ^{くだ} ^{はんとあ} ^あ
 ママトは山を下り、ハントアに会いました。そして、お

^{ひめさま} ^ほ ^い ^{はんとあ}
 姫様の欲しいものを言いました。ハントアはしずかにきき

^い
 ました。そして、言いました。



「そうですか。お姫様のお願いはとても難しいお願いです。

私はもうあまり元気じゃありませんから、王様を助けるこ

とができません。王様に『あきらめてください』と言ってく

ださい。私はもう王様に会うことができません。」

ハントアはとても悲しかったのです。そして、滝の中に消えてしまいました。

ハントア以外のママトたち家来は、王様のところに帰り

ました。そして、お姫様の欲しい物とハントアのことばを王

様に言いました。



おうさま おどろ かんが か のみ
王様は驚きました。そして、しばらく考えました。蚊、蚤、
びんろう なみだ あつ まらっか
ビンロウ、涙を集めることはできます。しかし、マラッカ
れだんさん きん ぎん はし たいへん
らレダン山までの金と銀の橋をつくるのは、とても大変で
す。かね ひと ちから じかん はんとあ
す。お金と人の力と時間がたくさんかかります。ハントアも
もういません。でもおうさま ひめさま けっこん
もう王様はお姫様と結婚したかったので、
あきらめませんでした。そして、はし
橋をつくることを決めまし
た。

か のみ びんろう なみだ あつ はし けらい
蚊、蚤、ビンロウ、涙を集め、橋もできました。家来たち
はし わた ひめさま あ い ひめさま はし
は橋を渡って、お姫様に会いに行きました。「お姫様、橋を
み
見てください。とてもきれいです。さあ、おうさま けっこん
王様と結婚してくだ
さい。」



ひめさま い
お姫様は言いました。

「ありがとう。とてもきれいですが、^{わたし}私はもうひとつ、^ほ欲しい
ものがあります。それは、^{おうさま}王様の^{むすこ}息子さんの^ち血を^{ちやわん}茶碗一杯
です。^{むすこ}息子さんの^{みぎ}右の^{うで}腕を^き切ってください。」

^{けらい}家来たちは^{まらっか}マラッカに^{かえ}帰りました。そして、^{ひめさま}お姫様の^{ねが}お願いを^{おうさま}王様に^い言いました。

^{おうさま}王様はとても^{おどろ}驚きました。そして、^{なが}長い^{あいだ}間、^{なに}何も^い言いま
せませんでした。でも、^{おうさま}王様は^{ひめさま}お姫様と^{ぜったい}絶対に^{けっこん}結婚したかった
ので、^{むすこ}息子の^{みぎ}右の^{うで}腕を^き切ろうと^{おも}思いました。



その晩、王様は息子の部屋へ行きました。かわいい息子はよく寝ています。王様は剣を振り上げました。でも、振り下ろすことができません。

「えいっ、もう一度。」

すると突然、光の中にきれいな女の人が出てきました。

「王様、やめてください！私はレダンの山の姫です。あなたは息子さんの腕を切るのですか。とても悪い人です。私はあなたと結婚しません。」レダンの山のお姫様は強い声で言いました。



そして、お姫様は突然消えました。同じ時、金の橋も銀
の橋も消えました。王様も、家来たちもとても驚きました。

そして、みんな悲しくなりました。

その後、誰もレダンの山のお姫様を見つけていません。お
姫様はどこへ行ったのでしょうか。

さて、それから何百年も経ちました。でも今、不思議な
ことがあります。レダン山で、あの魔法使いのおばあさん
を見る人がいるそうです。(2169字)

